



国際ロータリー第 2530 地区 県北第一分区 福島南ロータリークラブ会報

事務局連絡先 024-546-3793



2020.11.18

会員 73 名中 47 名 出席 64.38%
修正 55 名 75.34%
メイクアップ 8 名

国際ロータリー会長 ホルガー・クナーク Holger Knaack
国際ロータリー第2530地区ガバナー 石黒 秀司
福島南ロータリークラブ 会長 松崎 弘昭
標語「後から来る者の種火となって共に熱く燃えよう」

例会会場連絡先/クーラクーリアンテナパレス TEL 024-523-3811 毎週水曜日 12:30~

◆会長挨拶 松崎 弘昭 会長



早いもので 11 月中旬を過ぎてしまいました。春の華やかな万花香る青春、夏の眩いばかりの朱夏、そして秋の命尽きる美しい白秋、その後は厳しい寒さの中で春を待つ艶やかな玄冬。生まれ出でた生命が土に還っていく命の繋がりが来春へと引き継がれます。「光陰可惜」。自然の営みは喧騒の世界とは関係なく飽くことなく続くようです。

さて、今日は、食事の後に、定款、細則の改正ということで、その改正要点について未来計画委員会から説明をさせていただきます。現在の細則では、改正は一定の周知期間を置いて例会で採決することになっていますので、採決については次週の例会で行いたいと思います。今日は、これに規則に関連して若干、お話をさせていただきます。元クラブ会員で、何冊ものロータリーに関する冊子を執筆され、残念ながら今年 8 月に 102 歳の天寿を全うされた佐藤さんが書き残した本の中に、規則に関する記載がありましたので、少し、紹介させていただきます。「規則を論ずる場合、理屈をこね回したり、手続要覧などの文言だけに拘っている話をよく聞きますが、これだけではなんの役に立たないということです。一方あまり規則などご存知ない方でも、立派に奉仕活動をしている方もたくさんいます。

ロータリーは、友愛に満ちた会員の集まりです。従って、ロータリーの規則は、会員を極端に拘束し、取り締まるためのものではなく、友情の増進、奉仕の向上、そして、運営の円満を期すためのものであります。規則の拘束的な運用はさけ、常にロータリーの理念に基づいて臨機応変な決定を成すべきなのです。」という内容です。

つまり、規則の裏にある大事な部分（大きく言えばロータリーの理念、目的、細かいところでは、条文の趣旨）といったものをしっかり守りながら、柔軟な運用が求められるということを言っているものだと思います。

この規則については、ポールハリスもこんなことを言っております。「時として、ロータリーの決め事にそぐわないとしても、議論するだけのロータリーでは、何の役にも立たない」ということで、規定の枝葉末節に囚われることに警鐘を鳴らしております。とは言っても、ロータリーのルールを軽んじていと言っている訳ではありません。

ロータリーのルールは、先人がその経験を積み重ねて作り上げた運営上の知恵ですので、大切にしていけるのは当たり前であります。要は、時代に合わせて変化させていくべきものであると思います。

そのようなことを踏まえ、変化に耐えうる細則の改正。ということで未来計画委員会担当の会長エレクトからの説明を聞いて頂きたいと思います。若し、質問やご意見がある場合は書面に事務局まで提出して頂きたいと思ひます。

◆会員の広場

乾杯は、宗教的儀式が起源と言われ、それが現在の乾杯につながったとされています。乾杯の際にグラスを合わせますが、じつはこのグラスを合わせる動作にも意味があり悪魔はグラスを合わせた際に出る音が苦手なんだそうです！今現在、有力な説として「毒の混入を調べるため」という事があるようです。グラスの中に入れた酒などの液体に毒が混入していないかということを確認するためだったそうです。諸説あり！

◆次回 11 月 25 日 (水) 第 18 回例会プログラム

1. 開会点鐘
2. ロータリーソング
3. 四つのテスト
4. 会長挨拶
5. クラブ定款、細則改正について
6. ｸｰﾗｰ財団地区補助金セミナー報告
7. 地区会長幹事会報告
8. スマイルンクボックス報告
9. 会員スピーチ (三浦善治 会員、河野忠 会員)
10. 幹事報告
11. 閉会点鐘

【 例会予定 】

- 12 月 2 日 (水) ゲストウサインスピーチ (白坂 亜紀 様)
- 12 月 9 日 (水) ｸﾗﾌﾞ 年次総会 (次年度理事役員・役員選挙)
- 12 月 16 日 (水) 会員スピーチ
- 【 地区・分区・その他関連行事 】
- 11 月 29 日 (日) ガバナーエレクト事務所開設披露式、国際協議会激励会
- 12 月 11 日 (金) 第 4 回第一分区会長・幹事会 (ウェブィング エリート)
- 1 月 4 日 (月) 市内 8 ｸﾗﾌﾞ 新年合同例会 (ホト: 福島中央 RC)



◆各種功労者表彰 (ポールハリスフェロー / 米山功労者表彰)



◆ポールハリスフェロー

尾形 博幸 会員 マルチプル 1
武藤 正隆 会員 マルチプル 6
佐久間 功 会員 マルチプル 7



◆米山功労者表彰

吉田 和義 会員 第 10 回メジャードナー
大橋 廣治 会員 第 18 回メジャードナー



◆ファイヤーサイドミーティング報告 (未来計画委員会: 林 克重 委員長)



11 月 12 日 (木) に行われました「第 1 回ファイヤーサイドミーティング」について報告致します。「ベテラン会員の大橋さんや、武藤さんと話をしたことが無かったのでこんなに話せて良かった！」と、新会員さんからの声など、たくさんの意見が出てとても楽しく充実した時間でした。ｸﾗﾌﾞ をより良くする為今後も実施します。



◆県北第一分区 IM 報告 (河野 忠 会員)



去る 11 月 14 日土曜日、県北第一分区インターシティーミーティングに参加してまいりました。県北第一分区 7 クラブから約 200 名の参加者のもと行われ、福島南クラブからも 27 名出席しました。1 部は福島 RC 阿久津バスターカバナーより「ロータリーの来し方を顧み、行く末を見つめて」基調講演。RC 誕生から今日までの歴史の変遷について。最後に「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず。」いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねるものも取り入れていくことが不易の本質であることと締めくくられました。2 部はパネルディスカッション「5 年後のロータリー・5 年後のクラブを語ろう」をテーマに立場の違う 6 人のパネリストによる討論。福島南 RC から松崎会長が出演されました。3 つのテーマ、1 つ目、会員増強を考える上で女性会員を増やすにはどうしたらよいか！今の時代、ジェンダーにこだわらず、ダイバーシティの考え方が大事、女性と言うよりも RC に相応しい人を増強すべきとの見解。2 つ目、例会の出席率の向上！各クラブとも、入会間もない会員が欠席しがちになり、退会につながっている現状がある。様々な試みで出席率向上を目指す、結局は例会の企画の良し悪しよりも、例会での何気ない声掛けや、役割を与えることが、意欲の向上につながり、出席率向上や退会防止に繋がる。3 つ目、デジタル化について。デジタル化が進んでも、顔を合わせなければできないことがあるということ、取捨選択して取り入れることが重要。5 年後を語ろうということでしたが、現在の課題を解決しないと 5 年後もないということ、着実な取り組みが必要だと思ひます。

終わりに大橋バスターカバナー、芳賀直前ガバナーから講評があり、中でも温故知新、オールドノーマルと言うキーワードの話があり、基調講演からの一貫性を感じられました。最後に次年度は福島 21RC がホストクラブと発表があり 終了となりました。※IM の始まりは、サツマシロとオウランドの湾を挟んだ両市の RC が行った「湾を越えての愛の宴」が原点だそうです。今回は宴がなくて残念でした。

◆会員スピーチ (鈴木 光一 直前会長)



皆様こんにちは、前に立つのは 5 ヶ月ぶりのごぶさたでございました。前年度はコロナ感染防止という事で例会の休会や行事の中止があり心残りな年度でしたが、会員の皆様には例会運営や地区行事・奉仕活動に大変お世話になりました改めて御礼申し上げます。コロナによる例会休会はありましたが 6 月 24 日最終例会が無事終わりホットしました、1 年間貴重な経験をさせて頂きました事に感謝申し上げます。

※今回は、松崎会長よりスピーチと命をうけピンチヒッターでのご登壇でしたが、機転の利いたスピーチは時間配分もピッタリで本当にありがとうございました。後半の「乾杯のお話」は会員の広場に起源の部分だけですが掲載させていただきました！ ｸﾗﾌﾞ 会報委員会